

9月定例会



松本 一二美 議員



赤ちゃんは宝もの♡

不妊症・不育症支援の取り組みを

不妊症治療費の助成を検討する

問

近年、妊娠を望む夫婦にとって不妊症・不育症が増えている。医療保険が適用されない治療は高額になり、経済的負担が大きい。長期的治療を要することも多く、妊娠を断念するケースも多い。安心して子どもを生

み育てられる取り組みは必要だ。不妊症・不育症についての見解を伺う。1点目、支援の現状は2点目、相談体制の現状3点目、治療費の助成を

- 健康課長
- ① 不妊治療は1回15万円を限度に県の助成はある。
 - ② 保健センターの保健師が対応している。
 - ③ 少しでも上乘せして助成ができるよう前向きに検討する。不育症治療費助成は、国などの動向を見る。

地域包括ケアシステムの構築の現状は

地域の連携と介護サービスの充実を図る

問

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包

括ケアシステム）の構築を推進している。当町の地域包括ケアシステム構築の取り組みの現状は。

保健福祉部長
当町は、現在高齢化率27・5%だが、平成37年に

は33・2%になると推計される。現在、独居高齢者は2,133人である。今後ますます医療、介護サービスの充実を図りながら、地域の連携を強化していきたい。また、地域包括支援センターの役割に応じた人員体制の強化を図っていく。